

平成23年新年賀詞交換会

1月6日、市中央生涯学習センターで新年賀詞交換会が開催され、200人を超える市民が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。

ここでは、主催者代表の池辺勝幸市長のあいさつを紹介します。

市長あいさつ(要旨)

◇転換期の年

皆さん明けましておめでとうござい
ます。今年一年よい年になるように心
よりご祈念いたします。

昨年は大きな変化の時期にある年で
した。希望とともに政権交代が行われ
ましたが、改革は進まず、私も市政
運営を行っているものにとっては、不
安を抱かざるをえず、今後の行く末に
身の引き締まる年でした。

経済的にはリーマンショックの影響
から、世界の金融界が瀬戸際まで追
いつめられ、中国や世界中の先進国が、
大規模な国の財政出動によって、何と
か経済崩壊を支えた一年であつたと実
感しています。

戦後、すべての人たちが生きるため
に努力をし、経済成長を成し遂げ、そ
の富の繁栄を享受した時代も、今年
いっぱい終わるのではないか、その
よくな危機感を持っています。

私も今までの生活を振り返り、
反省するとともに、新たな困難な時代
に対する決意をしなければならぬ、
そのような歴史的な転換点に立つので
はないかと思っています。

牛久市を見ると、平成22年12月31日

現在で牛久市の人口は外国人を含めると8万2400人となり、これから8万3000人にならんとしています。おそらく、今年も牛久市全体の人口は順調に1000人前後の増加をしていくというふうに考えています。そして、その1000人のうち99・9%は30代と、その子どもに当たる0歳から中学生ぐらいまでの世代です。牛久市にあつては、団塊の世代、そしてその子どもに当たる団塊ジュニアが多くなっていますが、それらを除くと、大体20歳代から0歳まで、1歳当たり720人〜790人前後で推移しています。ようやく、少子化の歯止めができてきつつあるのかなという感じがしています。

◇この7年を振り返って

私が市長に就任した7年前、国では小泉政権の三位一体の改革により、国も地方も大幅な歳出削減に入つた年でした。牛久市でも3年ぐらいの間に10億円近い歳出を削減しなければならぬ、非常に困難な時期でした。



牛久市もさまざまな体質改善をしてきました。私が市長就任時から一番申し上げているのは、この人口8万人を超える牛久市にあつて、このまちを一番良くすることができるとは、どの組織だろうということですが、これは、言うまでもなく、医療、介護、福祉まで含めれば年間で350億円の歳出をしている牛久市役所です。

どんな厳しい状況であれ、皆さんと手を携えて、足らざるところは、皆の力で補い合い、お互いに支え合う意思を持ち、どういう時代でも乗り越えていくと決意をしています。

◇安心して生活できるまちへ

来年度の牛久市の一般会計は約219億円になろうとしています。22年度の決算ベースで見ると、今年度の決算見込み額は約234億円。そのうち、今までの予算と変わったのは国が

ら来た子ども手当の財源です。22年度、国から市に入ってきて、そのまま支給の手続きをして支出される子ども手当は約10億円です。

そして、23年度の当初予算約219億円のうち子ども手当は約14億円です。市の実質的な予算は224億円から205億円ということと約20億円の圧縮をします。それでもまだまだ圧縮は足りません。

平成18年の当初予算がちょうど180億円でした。平成15年10月3日に市長に就任して大幅な歳出削減をしなければなりません。ただ市民の皆さんに極力迷惑を掛けないようにするために、内部の運営コストを削減することで、市民の皆さんに対する行政サービスは低下させない方針で何とかやってきました。

その当時315億円前後の市債残高がありました。そして今、21年度の決算ベースでは319億円の市債残高と4億円増えています。しかし、基金を10億円増やしていますので、約6億円の現金が増えています。

しかしその間に、実質6億円削減しながら、投資的経費で180億円の投資を行いました。そのほか福祉面など、さまざまな事業を展開し、現在、ひたち野うつく小学校の温水プールの建設を進めています。これにより牛久市の大規模な投資は終わっていきまので、今後は皆さんの日常生活のインフラとしての整備事業を進めていきま

す。
また、牛久市は超高齢社会に入り、65歳以上の方が人口の20%を超えました。この地域を安定したものにするためには、さまざまなことをしなければなりません。

まず、子育ての支援、保育園の開園をはじめ、小学校の放課後児童の学童保育の充実などを進めて来る一方で、私たちの生活を支えるインフラの下水道が8キロも不備がありました。これを早急に直さなければなりません。

それから、近年、地球温暖化現象でゲリラ豪雨が騒がれていますが、ゲリラ豪雨が騒がれる前から、牛久市においては雨水対策が未整備でした。そのため雨水整備に予算を振り分けなければなりません。牛久市の住宅地は増えましたが、それを支える雨水の整備が手抜きになっていました。いわば牛久市の水害は人災です。早急に対応しなければなりません。そのために、東みどり野の根古屋川の調整池を、一時的にはありますが所有者の同意をいただいで借り上げ、整備しました。

このように根古屋川事業は大きく変更しています。当初は18億円かけて常磐線と国道6号を雨水管で抜く工事を予定していましたが、18億円かけて雨水が完全に流れるわけではなく、さらに20年前に計画した事業を実施しようとしていました。私はそれを中止させ、より有効な効果を見込める調整池を早急に作りました。現在は一時的なもの

でありますが、これから本格的に進めていきます。このように牛久市のさまざまな面で、相当な不備がありました。これを改善しなければなりません。ということもしながら、大勢の市民の皆さんが安心して生活できるさまざまな整備をしなければなりません。

牛久市は前向きに市政運営をしており、県内では東海村を除けば、この牛久市が財政的には一番です。行政サービスも茨城県で一番です。北関東で8番目です。しかし、今後はあれもこれもやるというのではなく、必要なものを着実に遅滞なく進めながら、市民の皆さんと一緒にこのまちの運営をしなければなりません。

◇協働のまちづくり

今後、牛久市の運営をしていく中で、皆さんにご協力いただきたいことがあります。それは、市民の皆さんとの協働の市政運営です。今まで各行政区のコミュニティ活動を活発化させるために、その拠点となる区民会館をはじめとして、運営の補助などを広げました。この行政区の組織をより強固にしながら、その行政区の皆さんと市がその地域で話し合いをしながら、皆さんの目線に合ったまちづくりをやっていくというものです。

これは先進国の地方都市では当たり前に行われています。戦後日本人が失ったものは幾つかあるといわれています。家族のきずな、農業そのほかに

もいろいろあると思います。地域での住民とのきずな、地域コミュニティも無くしたものの一つでしょう。私はこの地域での住民とのつながり、コミュニティ、これを基礎として今後の市政運営を行っていきたくと考えています。

◇跳躍の年へ

今、牛久市の人口は増えつつあります。しかし、税収は落ち込んでいます。そして、医療介護といわれる扶助費は着実に年間1億円ずつ増えており、それに対する牛久市の負担も5000万円ずつ増えています。

税収が毎年1億円から1億5千万円ずつ減る中、市の負担すべき費用は単年度で5000万円ずつ増えていきます。そうすると、年間で2億円使えるお金が減っていきます。この財政的な問題を解決しなければなりません。今までの市役所の運営の中で、いろいろな課題をこなしてきましたが、健全な財政を今後も維持していくという財政的な大枠の中で、皆さんとより良いまちをつくっていくかなければなりません。

そういう意味で税金の投資だけに頼るのではなく、市役所も民間の皆さんと同じように、新たな価値を付け加えるような行政にしなければならぬ。皆さんの貴重な財産から頂いている市税を、市民の皆さんが相対的に新たな所得を得ることのできるような市政運

営をしなければなりません。新たな操業です。それも皆さんと手を携えて行っていきたくと考えています。

今年が平成23年うさぎの年です。今までまいてきた種が一つ一つ芽を出していき、さまざまな課題を跳躍し、乗り越えていく年だと思っています。簡単な跳躍では倒れてしまいます。しっかりと、いろいろな波風にあってもぶれない、そういう市政運営を心掛けながら、皆さんの生活がより安定し、より向上するように努めていきます。

今年皆さんにとりまして、良い年になりますようご祈念申し上げます。今年もよろしくお願い申し上げます。

